

ASUMA

Agri Support Machinery by Mitsubishi

三菱農機ユーザー情報誌

三菱農機だより

通刊

vol.16

クローズ

アップ

特集 新ブランド“ASUMA”誕生

■ ASUMA 新製品紹介 ■ 三菱ユーザー紹介(山形)

■ ごはん讃歌 ■ 自家野菜の活用術 ■ プレゼント

明日の農業と健康を考える

ASUMA

創刊

三菱農機株式会社

代表取締役社長 島崎 誠

平素は三菱農業機械をご愛顧賜り
厚く御礼申し上げます。

さて、弊社は昨年11月に三菱重工業の完全
子会社になったことを機に、三菱重工業グループ
との関係強化によるメリットを最大限に発揮し
た商品開発を積極的に展開し、お客様のご要
望にお応えするとともに、微力ながら日本農業
の発展に貢献してまいります。

また、その思想に基づいた新商品を、
「ASUMA(アスマ)」として販売してい
きます。「ASUMA」の名称は、「三菱
農機は日本農業をサポートする総合農機
メーカーとして農家の皆様に応援します。」
(Agri Support Machinery
by Mitsubishi)の頭文字を由来
とし、「ASUMA」の「A」には、安全作業
(Anzen)を、安心品質(Anshin)
を、明日(Asu)の農業をサポートするとい
う3つの意味も込めています。

これからは、これらの思いを込めた、
「ASUMA」のトラクタ・コンバイン・田植機
で、日本農業の未来を切りひらき、農家の皆様
の営農に貢献してまいりたいと思っておりますの
で、これまで以上に三菱農業機械をご愛顧賜り
ますようお願い申し上げます。

ASUMA新製品紹介
—コンバイン編—

国内最小の 小型汎用コンバイン VCH650



**新しいコンセプトの
コンバイン**

コンバインといえば大規模農業での効率作業に注目が集まりがちでしたが、中山間地の農業に対応し、新規就農者にも使いやすい小型汎用コンバインの出現が待たれていました。中山間地の農業では中小区画圃場が点在し、作付も多品目で、収穫時期も重なります。そのため迅速に効率よく使えるコンバインが必要でした。三菱農機と(独)農研機構・生研センターではこれらのニーズに対応する新しいコンセプトの汎用コンバインを共同開発しました。それがVCH650です。

高い汎用性

コメはもちろん戦略作物(麦・ソバ・大豆等)が収穫にできるよう汎用性能を格段に高めました。



優れた刈取り機能

水稲最高刈取速度1.0m/Sですばやく刈取り、ロスを最小限に抑えた収穫作業が実現できます。

倒伏刈りスイッチ

倒伏材刈取時は主変速レバー上の倒伏刈りスイッチを押すだけでリールのタインが自動で刈りより下降し、材料を容易に引き起こします。リール回転速度も上昇するので、部分的に倒伏している場合もノンストップで刈取りできます。



強制掻き込みスイッチ

強制掻き込みスイッチを押すとリールが下降し、リール回転速度が高速になります。畦際での高速作業時や機体停止時も材料をこぼすことなく、プラットホームへ搬送できるので、ヘッドロスを低減できます。



公道走行を可能

VCH650は中山間地農業での作業性を向上させるため、方向指示灯や前照灯を装備し、保安基準に適合した機体設計で、圃場から圃場への公道走行を可能にしました。ただし、ナンバープレートをつけることと、大型特殊免許の取得が必要です。

先進の脱穀システム

スーパーeスレッシャ

送塵量自動調節機構
脱穀負荷に応じて送塵ガイドが自動開閉します。こぎ室内に粉やワラ屑などが滞留すると、ガイドに加わる力が大きくなり、ワラ屑などを脱穀部後方へ逃がし脱穀負荷を最適に維持維持します。

撥水加工揺動板
食品衛生基準をクリアしたフッ素樹脂コーティングの揺動板を採用しています。高水分材でも揺動板に付着しにくく、分散性に優れているので、揺動板上での滞留時間が短くなるため材料の損傷、大豆汚粒を減少させます。

スクリュウ脱こく式 大径ロングこぎ胴

ロータ周辺に取り付けたスクリュウこぎ歯により作物を搬送しながら、脱こくします。ロスが少なくく粒をキレイに収穫できます。(こぎ胴は作物に合わせて2段階に変速可能。)

4トトラックに車載可能

新製品は3機種あり、サイズは幅214~415cm、全長485~551cm、高さ261~263cmと国内最小の汎用コンバインです。機体総重量は約3.7トンなので、4トトラックに積み込み楽々移動することができます。搬送が容易な上、作業効率の向上がはかれ、コンパクトボディなので中小区画圃場での作業性が抜群です。



日本農業へのサポート体制の充実を計り、
未来志向の製品開発

商品力の向上

三菱ユーザーの
期待にお応えしたい

ソフトと
ハードの充実

農業新時代へ
対応

農業サポート
体制強化

新キャラクター
ASUMAちゃんです!!
よろしく。

品質向上

新コンセプトを導入した
新型機



3つのサポート

A はASU(明日)のA。
明日の農業をサポートするために、三菱農機はユーザーの皆様が使いやすいよう省力化をはかり、作業時間を軽減できるように努めます。

A はANSIN(安心)のA。
安心して使えるよう三菱農機ではトリプル検査を行います。工程内完成後、さらに出荷前・二重の検査をし、安心品質のご提供に努めてまいります。

A はANZEN(安全)のA。
ユーザーの皆様が安全に作業していただけるよう安全装備の充実にも努めます。

新ペットネーム
■ASUMAトラクタ
■ASUMAコンバイン
■ASUMA田植機

[ペットネーム変更例]

三菱トラクタバルシードGS250 → 三菱トラクタASUMA GS251

三菱農業機械のあゆみ

三菱農業機械はユーザーの皆様にあわせてこまできました。常に農業情勢の変化に対応し、農業機械の種類や機能の向上に努めてまいりました。ここでは、これまでのあゆみをふりかえってみました。懐かしい製品も数多く登場します。

1980

三菱農機発足

トラクタMT5501D、6501D発売

ミニコンバインでは初めてとなる方向自動、ベルト無段変速機能搭載のコンバインMC5500発売

田植機マイレディMPR400発売。

マイレディシートシリーズが誕生する

田植機マイレディMPR500発売

トラクタバルシードMT2501発売



コンバインレセルタMC1450発売

ボイスモニター採用のコンバインMC1950発売



1985

コンバインレセルタM1シリーズ発売

マイコン制御採用のトラクタバルシードF1シリーズ発売

トラクタバルシードF3シリーズ発売



田植機マイレディMPR40/50/60発売

業界初の高速5条刈りコンバインMC5000G発売

トラクタバルシードF3シリーズ発売

コンバインレセルタMC13/15/17発売

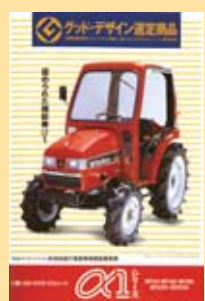


スーパーサイドローラを新装備したコンバインMC20/22発売

水田から果樹園まで幅広く対応する小規模農家向けトラクタファミリーMTX13D/15D発売

丸みのスタイリングの小型トラクタ

バルシードa1発売



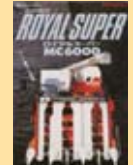
トラクター バルシードa1 MT205VEが商品デザイン部門でグッドデザイン賞を受賞

高性能ロータリ植え付け方式ノックラッチ3段変速の田植機MPR45H/55H/65H発売

三菱バジエロ搭載エンジンを採用したフル装備5条刈りコンバインMC6000発売

機体の重心位置をベストに保つジャストスイング機構を採用した步行型4条植え田植機MP45発売

乗用4条植え田植機マイレディシートMPR4H発売



1995

S&Cジェットエンジン・ハイアンテナ・PTO搭載の本格中型トラクタGXシリーズ発売

表層砕土同時移植で代掻き不要のハ口田植機MHP6H発売

増速ツインこぎ胴

コンボアップ搭載の3条刈りコンバインMC320発売

再生紙使用の紙マルチ田植機MKP505発売



紙マルチ田植機MKP505が商品デザイン部門でグッドデザイン賞を受賞



田植機マイレディシートMPR4Hがグッドデザイン賞を受賞

すべてが新しい。業界をリードした田植機がさらに一步前に入る

LE50(5条植) LE60(6条植)



力強さと
快適作業で
田植をリード
(Lead)
高馬力・新軌跡、
省力化

三菱農機の新ブランド「ASUMA」の思想を盛り込んだ自信作。田植同時施肥のベースト側条施肥、枕地ならし不用のまくらっこ機能、補助着の労力低減の苗スライダーなど常に業界をリードしてきた三菱ASUMA田植機がさらに一段上の機能を充実して新登場です。

新エンジン

- 空冷2気筒ガソリンエンジン搭載(最大出力18PS)
- 大容量燃料タンク(18L):5時間以上の連続作業が可能

イメージ新のデザイン

- 大型新ライト+フロントオープン型の新ボンネット
- 作業スペース広々のフルフラットステップ
- ピュアホワイトの色彩で清潔感のアップ

新機能のスーパースマイルターン

- 新旋回自動植付システム
【特徴1】自動復帰機能
【特徴2】折り返し記憶機能
【特徴3】ダイヤル調整機能

自動植付システムは、植始めと植終わりがキレイ

新軌跡で植付がきれい

- 疎植仕様を標準装備
- 新設計のプランターケース
- ラチェット式縦送で確実な苗送り

ペースト施肥機の満足向上

- 外装ペーストタンク<72L>
~大容量化による補給回数低減で省力化~
- ワンタッチオープン供給口&ドレンホースコック

新苗スライダー

- 左右回動式採用(LV63A/8A/8AD継承) / 角度調整による投入口の上下高さ調整機能

ジャイロ搭載で耕うん精度向上

- 機体の傾斜を素早く検知し、耕盤凹凸に対する追従性を向上させるジャイロセンサー搭載。
- 用途に応じて選べるロータリ作業機
- 標準ロータリ…水田メイン
- Vロータリ…畑作用途に最適



新規採用装備・機能

- 安心装備・周囲からの視認性に優れたハイマウントフラッシュランプ・テールランプ
- 燃料給油時に満タンをお知らせする満タンブザー

快適な作業性

- 乗用車感覚で操作出来る灯火スイッチ
- ハンドル操作に連動し、作業機が上昇する旋回アップ機能(標準装備化)
- シャトル変速を後進に入れると、自動的に作業機が上昇するバックアップ機能搭載(標準装備化)

充実した機能を満載 農家をサポート

GS181/201/231/251



小型トラクタの決定版。機能充実して農業をサポートするASUMAの考え方が結実したトラクタになりました。ジャイロ搭載で、耕うん精度を向上。

オペレータに優しい装備

- ハイマウント・フラッシュランプ+尾灯
- 上位機種 GO/GX 同様に赤を基調としたカラーリング
- 新デザイン グリル

除染対応 トラクタ GCR1350

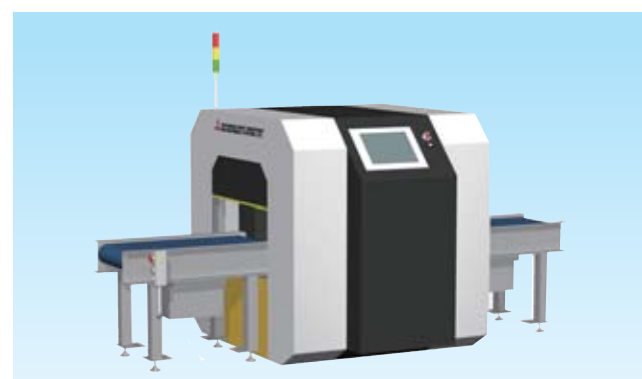


放射線遮へいキャビン装着
クローラトラクター
GCR1350

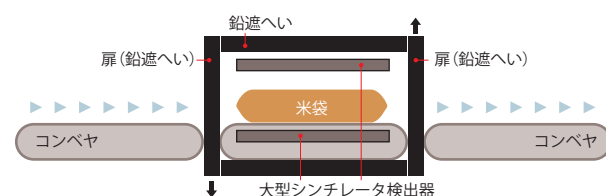
東北復興に向けて 三菱農機と三菱重工が共同開発 放射線遮へいトラクタ

東北の被災地では復興に向けて尽力していますが、最大の支障となっているのが除染です。(社)農業環境技術研究所が東北各地の農地の放射性セシウムを調べたところ、キロ当たり5000ベクレルを超える農地が8300ヘクタールありました。これは福島県の農地の5.8パーセントに相当します。膨大な数値ですが、この除染を進めなにかぎり復興はありえませんが、三菱農機では親会社である三菱重工と共同で農地を除染するトラクタを開発しました。これは国内最大クラスの134馬力エンジンを搭載した大型のゴムクローラトラクタ「GCR1350」。抜群の牽引力で土をはぎとると同時に、土寄せ作業も同時に行います。フルクローラ型特有の低接地圧で、圃場を傷めずに効率よく、かつ精度の高い作業をスピーディに行うことができます。

キャビンには、三菱重工が開発したトップクラスの遮へい技術を導入しています。鋼板と鉛でできた遮へい板で完全に密閉し、さら



放射線遮へいキャビン装着クローラトラクタにより、汚染された農地を早期に除染し、復興の手助けができることを望んでいます。



三菱農機が 放射能検査装置を 新発売

厳しくなった 放射性物質基準値

このほど食品に含まれる放射性物質の新基準が発表され、より厳格な基準が適用され、食品から受ける年間被ばく量の上限は従来の5ミリシーベルトから5分の1の1ミリシーベルトになりました。消費者から安心安全な食品の供給が求められる中、農作物の出荷する立場から、迅速で精度の高い検査体制と測定機器の開発が急がれていました。

コメ専用の セシウム値を 測定できる装置

三菱重工はコメに含まれる放射性セシウムを高速で測定できる放射線検査装置を開発し、三菱農機が販売することになりました。このほど施行された放射性セシウムの新規制値に対応し、コメ袋をコンベアに乗せるだけで簡

単に測定ができる装置です。30キログラムのコメ袋を乗せるだけで、1分当たり4袋分を測定できスピーディーな検査が可能になりました。

検査する部分全体をカバーで覆う仕組みを採用しており、外部からの放射線を完全に遮断した状態で測定するため、まわりの環境に左右されない正確な測定ができます。測定下限値は5秒間の測定時に1キログラム当たり15ベクレル以下、15秒間の測定時に1キログラム当たり10ベクレル以下となります。

三菱重工はこれまで低レベルの放射線測定器は扱っていましたが、コメ袋の測定に特化した精度の高い装置の開発は初となります。今回の装置は初期段階の放射線検査に対応しており、価格は2千円。農業分野に販売網を持つ三菱農機が国内向けに販売します。

なお、新型装置は水処理装置や検査装置の開発を手がける三菱重工の子会社「三菱重工エレクトロニクス」が放射線計測機器メーカーの「セイコー・イメージング」が共同開発したもので、今後さらに精密検査等に対応し、自治体等などに提案していく方針です。

- HST採用の経済タイプトラクタ MTRシリーズ発売
- トラクタGZシリーズ、ニューファミリーシリーズ発売
- コンバインVM156発売
- オートブレーキターン、フルシャトルを採用した本格小型トラクタMT1615241発売
- MAC・ATシステム、ツインハブTシステム搭載のフタ屋向け高性能・高効率5条刈コンバインVG55/65発売
- マイレディシフト、高速ロータリ植付部を搭載した高機能本格乗用田植機MPR510/610発売
- 田植機MPC4発売
- 本格中型トラクタGOシリーズ発売
- トラクタMTMシリーズ発売

2000

- 全機種丸ハンドル仕様のゴムクローラトラクタMKM65/75発売
- お手ごろ価格の本格派トラクタバルシードGSシリーズMTZタイプ発売
- コンバインレセルタVMシリーズ発売
- 枕地をならしながら田植をする曲線的な装置を装備した田植機MPR510/610Mシリーズ・まくらっこ発売
- コンバインVS251/281/VY321発売
- 世界最小最軽量、中山間地向けコンバインVM7発売
- 新型三菱エンジン「Zチャージャー」タービンを搭載したトラクタGOZシリーズ発売
- 自社製品最高出力の160馬力で最高時速21キロでの高速走行を実現したクローラトラクタGCR100発売
- 居住性と快適性の向上を実現したトラクタGXシリーズ発売

2005

- ディーゼルエンジンを搭載し軽量コンパクトながら高出力エンジンを実現した田植機LV8D発売
- 「まくらっこ」を標準装備したマイレディリードLV4発売
- コンボアップ、増速イン板胴等三菱独自機能を満載した大型コンバインVG857/908発売
- 高効率と快適作業を追求した新MAC搭載トラクタNewGOシリーズ発売
- 低接地圧で、湿田でも軽快に、力強く走破するハイフレクローラトラクタGOK300/400発売
- プロ仕様ディーゼルエンジン搭載したマイレディリードLV8D発売
- 好評のGOシリーズをベースとした扱いやすくて価格重視のトラクタGJ247/30発売
- ゴムレールエンジンを搭載し、低燃費・高トルク・低騒音・クリーン排ガスを実現したクローラトラクタGCR1350発売
- 30周年記念トラクタGOシリーズ発売
- おまかせ操作のe-mac、簡単操作のe-shiftで簡単に高精度作業が出来るトラクタGO/GXシリーズ発売
- 高効率に低燃費・省エネプロ農家向け6条刈コンバインVR6180を発売

2012

- ASUMA誕生
- 汎用コンバインASUMAVCH650
- トラクタASUMAG181/201/231/251
- トラクタASUMAGE130/150/170
- 乗用田植機ASUMALE50/60





田植機に苗を稲を積み込むメンバー。「ボディをかわいい色に塗ってほしい」など、メンバーからはユニークな意見がとびだします。

生産だけでなく、販売、加工、飲食店など農業周辺のビジネスにも積極的にかかわっていることが夢はふくらみます。



左写真は右下の代表・高橋菜穂子さんから反時計回りで奈須野睦子(よしこ)さん、岩本嘉見磨さん、福田くみ子さん、平口いつみさん、平元沙穂子さんです。当日お休みの原田有佳さんは下に掲載。



植物ミスト米は植物から抽出されたエキスを田んぼにミスト状にしてまくことによって、害虫を寄せ付けにくくする効果があり農薬を使わなくて済むし、紙マルチをプラスすれば除草も不要。かぎりなく無農薬に近い米になり、おまけに米ぬかで化粧水を作ることできる。しかも、ガールズたちの美容と健康にもよい、いいことづくめなのです。

USER VOICE

山形ガールズ農場

農場代表 高橋菜穂子さん



女性のための農業をめざす女性グループ

農業界ではどうしても女性に協役という立場でしたが、ついには女性が主役になったグループが誕生しました。グループの名は、「山形ガールズ農場」。山形県村山市で、コマや野菜、果樹を作っている若い女性7人の農業生産グループです。メンバーが若い女性ばかりというのが話題になり、テレビはもちろん新聞雑誌などにもとりあげられました。

グループができたのは09年4月。山形県村山市の農家の娘として生まれた高橋菜穂子さんは、横浜国立大学へ進学、教育心理学を学ぶうちに、「子どもたちに食の大切さを教えたい」と思うようになり、「実家が農家だったし、父親は農業を続けていたので、これは天職だ」と思うようになり、「卒業後、山形の実家へ帰って農業をやりたい」と思いますが、若い女性が農業をやることにしたのが難しく、容易に受け入れてもらえませんでした。そこで、東京の総合アグリカルチャー事業会社「国立ファーム」の門を叩き、同ファームの生産部門として山形ガールズ農場を創設することになったのです。当初は高橋菜穂子さんと奈須野睦子さんの二人ではじめましたが、少しずつメンバーもふえて今では菜穂子さんのほかに6人の社員を抱えるグループとなりました。

紙マルチで漢方米を栽培

今では1.5ヘクタールでコシヒカリ、つや姫など5種類のコメを作っているほか、80アールでスイカ、ナス、サトイモなどを栽培しています。が、なんといってもこの農場の目玉は植物ミスト米。09年10月から「山形ガールズ農場米」と名付けて栽培、販売しています。これは30種類以上の漢方薬にもなる植物から抽出したエキスが入った液体を水田に噴霧して栽培したもので、残留農薬がなく、玄米のまま食べても安心だし、美容にもいいということから話題を呼びました。漢方薬だから、いくら身体に浴びても害にならないため、女性たちも安心して作業できるのです。



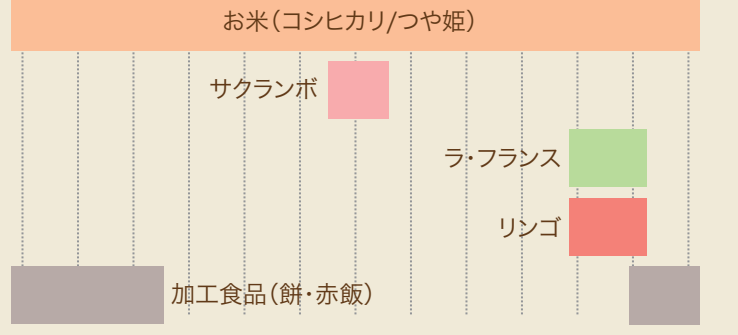
USER VOICE

しまさき農園

島崎真吉さん



産直販売時期



トラクターの前に並ぶ島崎さんのご家族。左から真吉さん、奥さんの久美子さん、お孫さんの夢さん、息子さんの真人さん。



ラフランスのジュースを手にする愛さん。ラフランスはまず予冷し追熟させ、柔らかくなったら冷蔵庫で保存します。最初はコンポートなどの料理にし、熟成が進んだらシャーベットにして食べますが、皮のまま豪快にかじりついてもおいしいものです。



島崎さんの広い倉庫。今は出荷を待つコメだけです。シーズンにはさくらんぼやラフランス、りんごなどの箱が所狭しと並びます。



「つや姫」の袋を手にする島崎真吉さん。消費者の声を傾けて作った自信のコメです。

島崎真吉さんは高校を卒業してからほぼ40年ずっと農業を営んできましたが、父親から引き継いだ頃は「コマと野菜が中心で、野菜から果樹に切り替えることになったのは、真人さんが農業大学で果樹を学んでいたこともあり、父で新しい技術を取り入れて果樹栽培に取り組み、経営の大きな柱に仕立てあげたのです。」

島崎真吉さんは高校を卒業してからほぼ40年ずっと農業を営んできましたが、父親から引き継いだ頃は「コマと野菜が中心で、野菜から果樹に切り替えることになったのは、真人さんが農業大学で果樹を学んでいたこともあり、父で新しい技術を取り入れて果樹栽培に取り組み、経営の大きな柱に仕立てあげたのです。」

30年前から産直に取り組み、紙マルチによる有機農業を

山形県の南東部にある南陽市は、農業が盛んな置賜地区の一角にあります。この地でコマとさくらんぼ、ラフランス、りんごなどの果樹を作っているのが「しまさき農園」の島崎真吉さん(58)です。

「しまさき農園」を営んでいるのは真吉さんですが、果樹部門の柱になっているのは長男の真人さん(29)。農業大学を卒業後、父親とともに農園を支えてきましたが今は「新あたらたや」という名前でも販売しています。しまさき農園」の中にも「つや」と「新や」というブランドがあるようなものです。そうすることで真人さんは独立心を持ち、農業への意欲を高めているのです。

経営規模は、水田が15ヘクタール(自作10ヘクタール、受託5ヘクタール)、果樹が12ヘクタール(さくらんぼ60アール、りんご40アール、ラフランス20アール)。これだけ大規模な複合経営をするには、「機械力を駆使しないとやっていけない」と島崎さんは言います。なにしろ4000枚もの苗を作り、その後は5月中旬から6月上旬まで田植え、その間も肥料散布や堆肥散布などをしなければなりませんから、機械なしの作業など考えられないのです。

島崎真吉さんは高校を卒業してからほぼ40年ずっと農業を営んできましたが、父親から引き継いだ頃は「コマと野菜が中心で、野菜から果樹に切り替えることになったのは、真人さんが農業大学で果樹を学んでいたこともあり、父で新しい技術を取り入れて果樹栽培に取り組み、経営の大きな柱に仕立てあげたのです。」

島崎さんのポリシーは、「自分で食べて納得したものしか出荷しない」ということ。「農家の人はたいてい自分で作ったコマしか食べないけど、私はほかの地域のコマも買ってきて、販売を担当している真人さん。」

農家に必要なのは販売戦略

島崎さんのポリシーは、「自分で食べて納得したものしか出荷しない」ということ。「農家の人はたいてい自分で作ったコマしか食べないけど、私はほかの地域のコマも買ってきて、販売を担当している真人さん。」

島崎さんのコマ作りで転換点となったのは、二十代の初めに会った東京の生協(東都生協)。今は全国どこでも当たり前になっている産直という考え方を、生協とつきあうことで身につけていったのです。以後有機栽培に取り組みましたが、思ったようにはいきませんでした。そこで見つけたのが紙マルチ栽培です。十年前に三菱農機の紙マルチ田植機を導入して試してみたところ、試行錯誤はあったものの大成功。今では30アールで紙マルチ栽培をしているそうです。

「初めは紙が風で飛ばされたりしてうまくいかなかったけど、紙の質もよくなって今は剥がれることもない。今度新しく紙マルチの6条田植機を入れたので、これからは紙マルチ有機栽培をふやしていこうと思っています」といっています。

島崎さんは30年も前から消費者に直接販売してきた人ですから、消費者の声には敏感です。「自分で販売しているから手なものを出荷できない。常に消費者を意識しているから、おのずと管理もきびしくなります。」

そのような姿勢が顧客に評価されて評判がひろがり、今では月に1回のペースで、首都圏はもちろん遠くは沖縄の消費者にまで精米が宅急便で届けています。コマのほか、ラフランスやさくらんぼなどの果樹も消費者に届けています。「お中元、お歳暮の時期に贈答用としての注文がきますね。人気があつて、現在は注文に応じきれない状態です」といっているのは果樹の販売を担当している真人さん。

「放射能の問題が出てきてからは消費者も敏感になっていますからね。生産履歴は前よりもきびしく見られているような気がします。これからは環境に悪いものは徹底的に排除していくという姿勢がないと、農業は続けていけないでしょう」と島崎さんは断言します。このような言葉は、消費者にとってはおなじみで聞かせることでしょうか。



しまさき農園様 担当セールス 東日本三菱農機販売(株) 南陽営業所 加藤さん

都会の若い女性をターゲットに

販売方法はユニークで、300グラム入りの小袋に入れて売っています。美容にもいいコマという評判になり、若い女性の間に人気が高まっています。

この植物ミスト米は、減農薬栽培米として現在30アールで作っています。「ヘリコプター防除の影響も受けるし、完全無農薬でやるのは現実的には難しい。だから減農薬でやる」と決めたんです。

とはいえ、減農薬も簡単ではありません。試行錯誤しているうちに「漢方薬米の師匠」に教えられたのが紙マルチ農法。紙マルチで田んぼをおい、雑草が生えないようにして除草の手間を省こうという農法です。これには三菱農機の紙マルチ田植機が欠かせません。そこで紙マルチ田植機を購入し、本格的に紙マルチに取り組みことにしたのです。これが奏功して、今では漢方薬に紙マルチをプラスして、独自の減農薬米を栽培しています。

都会の若い女性をターゲットに

菜穂子さんたちの考えは従来の農業とは一線を画しています。

「これまで農家がやってこなかったようなものに眼をつけて、小規模でもいいからじっくり作っていく」と思っています。いわば隙間を狙っているんです。都会でひとり暮らしをしていて、毎日米を食べないような女性に買ってもらえればと考えているんです。」

大多数の消費者を見るのではなく、「都会の若い女性」をターゲットとして戦略を立てていくというのです。都会の女性の「このことを考えて企画したのが「女子大生プロジェクト」週末は畑ステイ」というものです。ガールズ農場では、夏から秋にかけて、都会に住む女子大生を招待して農業を体験してもらいイベントを開催しています。菜穂子さんが「国立ファーム」で働いていた頃からやっているイベント。菜穂子さんが「将来結婚して子育てするときに農業体験はきつくて役に立つ」と提



「コシヒカリ」のほか「つや姫」「香り米」など5種類のコメを作っています。

名称	山形ガールズ農場
場所	山形県村山市大畑
ブランド	植物ミスト米、つや姫、香り米
経営規模	総4.5ha
主な作物	お米/スイカ/ナス/サトイモほか
保有機械	中型トラクター1台/紙マルチ田植機他
農業従事者	社員7人



山形ガールズ農場様 担当セールス 東日本三菱農機販売(株) 天童営業所 滝口さん



事務所には「新や」の看板も掲げられています。真人さんはこのブランドで果樹を販売しているのです。

名称	しまさき農園
場所	山形県南陽市砂塚
ブランド	新や(あらたや)
経営規模	総16.2ha
主な作物	水稲/果樹(サクラんぼ/ラフランス/りんご)
保有機械	大型トラクター2台/大型コンバイン/SSIほか
農業従事者	家族4人 繁忙時アルバイト他10人

ごはん讃歌



ラジオニッポンにて番組収録

北山たけしさん

Profile

1974年、福岡出身。2004年「片道切符」でデビュー。実力派歌手として多くのファンに支えられて多くのテレビ、ラジオ出演などで活躍。2005年から5年間紅白歌合戦にも出場。2012年3月、新曲「流星カシオペア」絶賛発売中。

小さいころから演歌好き

父がカラオケ教室をひらいていましたので、4歳の頃から演歌をよく聞いていました。自分も歌うのが好きでしたし、外で遊ぶよりは歌っているほうが多かったんです。9歳の時、初めて地元放送局の「のど自慢大会」に出まして、その時歌ったのが師匠北島三郎の「風雪ながれ旅」という歌で、なんとその大会で優勝してしまったのです。

その後全国大会に進み、そこで、水森かおりさんや夏川りみさん、そして島津亜矢さんらと一緒にになりました。皆さん歌が上手くてびっくりしました。自分ももっと上手くなって絶対歌手になると決めました。

その後、父がずっとファンだった、自分も小さい頃から憧れていましたので、北島三郎さんの弟子入りを志願したのですが、その時は未成年者ということで断られまして、地元に戻り歌の勉強をつけました。21歳になり、もう一度師匠のお宅の門を叩きました。

一番必要なのは心だ

師匠のお宅の門にあるインターフォン越しに、弟子入りをお願いをしたのですがもちろ

ん断られました。しかし自分では諦める気持ちは全く無かったです。門の前で何日も待ち10日目にやっと許して頂けました。この時はうれしかったです。

やっとなり入らせてもらったのですが、いわゆる稽古というのはありません。師匠の歌を聞いて、その姿を見て、いわゆる「挙手一投足、すべてを見て学ぶ」のが稽古でした。師匠が作詞作曲して新曲を作る時がありますが、この時は弟子に歌わせてくれました。師匠の前で自分の歌を聞いてもらえるのはこの時だけしかありません。

その後、付き人をして様々な経験をかせね、8年目に、師匠から「そろそろ船出をしてみるか」という言葉でデビューのお許しをもらいました。「片道切符」という曲でデビューさせていただきました。

なんとしても歌手になりたいという夢、そして両親のために歌手になりたいという思いで過ごしてまいりましたので、付き人の仕事も苦になりませんでした。師匠は常に「歌の上手い人、声のいい人は沢山いる。だけど歌手にとって一番必要なのは心だ。」と言われます。いつまでもデビューの時の気持ちを忘れずに歌っていきたいと思っています。

自然への気づかい

師匠の1500坪の家には、庭に家庭菜園がありまして、その菜園の世話をするのも弟子の仕事のひとつでした。自然と接する中から何かを感じて字びとれというのが師匠の考え方だと思えます。野菜づくりが中心でしたけど、草むしり、虫取り、水やりから、植木の手入れとか色々作業をします。農作業にはかなりくわしくなりました。野菜づくりは楽しいものですね。野菜はほぼ自給自足です。

作物は正直です、ちよっと手を抜けば枯れちゃいますから。自分が丹精込めて世話をすれば必ず立派に実ってきます。今でも農作業はやってますよ。自分で世話をした野菜を食べるのは最高です。

デビューした時に、記念ということで新潟の農家の方からコシヒカリの田んぼをいただきました。10a程の田んぼなんですけど一緒に田植えとかしています。忙しくて行けない時には農家の方が収穫して送ってくださいます。この米には「北山米」と名付けて毎年おいしくいただいています。自分の田んぼで穫れたと思うと最高にいいです。

自家野菜活用のおすすめ

農家なのに野菜を買っているお宅が意外に多いといわれます。月々の額は少なくとも、年間を通して見ればけっこう大きな額になるものです。自家野菜の消費は家計の改善にも役立つんです。また、自分で栽培することにより、野菜づくりのノウハウを蓄積でき、新鮮で、安心な野菜を摂取することにより、健康につながることもできます。自家野菜を大いに活用したいものですね。

家計を助ける自家野菜

日々の忙しさに追われ自家野菜に手をかけていられない農家が増えています。米価低迷や市況の厳しさから農家収入が伸びない昨今、少しでも家計を助ける工夫がほしいものです。農家の家計簿調査によると年間でもかなりの金額を野菜の購入にあてているといわれています。自家野菜の活用は一石二鳥以上の効果です。

栽培ノウハウの蓄積

農作物の生産のプロの皆さんでも、栽培作物によって得手、不得手があるようです。土地柄や気候によっても栽培方法は大きく違ってきます。土づくりや防除方法など、作物別の栽培ノウハウを蓄積することにより、本格栽培や市場出荷の取り組みにも結び付けられます。小型農機も大いに活用してください。

健康生活に役立つ

新鮮な緑黄色野菜は健康生活に欠かせません。以前は雪深い地方では冬場の緑黄色野菜の摂取が不足して、高血圧症や循環器系の病気の方が多かったもの。そこで自家野菜による緑黄色野菜の摂取運動を広めることにより、患者数が減少しました。新鮮野菜の摂取はバランスのとれた生活にも役立つのです。

子どもの教育に

子どもたちが自分が食べるものについて知ることは大事なことです。最近では体験農業の授業を行っている学校もあるようですが、農家で自家野菜を作れば簡単に食育ができます。子どもたちに手伝わせればベストですが、家で野菜を作っているのをそばで見ているだけでも十分教育ができることでしょうか。教育のためにも自家野菜を作ることはい

保存も可能

自家野菜を作ったときの問題は保存。つい作り過ぎてしまつて保存に困り、廃棄してしまうということも多々あるようです。でも、最近フリージングの技術が進歩して、いまさら家庭の冷蔵庫でも長期間保存することが可能です。それでも余れば近所に分けてコミュニケーションもはかれます。自家野菜を大いに活用してください。



ASUMA 読者広場

★ 当たるといいな！

このたび三菱農機ではトラクタ・田植機・コンバインの愛称を変更いたしました。皆様の一層のご愛顧をお願い申し上げます。そこで編集部では楽しいプレゼントが当たるクイズを用意いたしました。下記の空欄○に相応しい文字を当ててください。正解の方に抽選で「北山たけしさんのサイン入り色紙」と豪華プレゼント(三菱農機オリジナルブルゾンとキャップ)を差し上げます。ふるってご応募ください。

お答えはハガキに①お答え②住所・氏名・年齢③その他ご意見・ご感想等を書いて下記の宛先に8月末までにご応募ください。

クイズ 三菱農機の新しいブランド名は「ア○マ」です。

お答えは下記へどうぞ▼

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1
三菱農機(株)事業本部 アスマ編集部



アスマオリジナルブルゾンとキャップ

尚、前号(三菱農機だより15号)のランタンの当選者は下記の通りです。

■秋田県大館市・大根根真理 ■福岡県大牟田市・前田寿太 ■埼玉県熊谷市・久間務さん

本社 島根県松江市東出雲町揖屋 667-1 ☎ 0852(52)2111(代)

事業本部 東京都品川区西五反田1-5-1 ☎ 03(5759)8060
(東京事務所)

東日本三菱農機販売(株) 埼玉県久喜市桜田2-133-4 ☎ 0480(58)9524
北海道支社 ☎ 0123(22)1234 関東甲信越支社 ☎ 0480(58)9521
東北支社 ☎ 022(783)9520 東海支社 ☎ 052(419)6721
西日本三菱農機販売(株) 岡山県瀬戸内市邑久町豆田161-1 ☎ 0869(24)0805
北陸支社 ☎ 0776(27)3078 九州支社 ☎ 0942(84)1888
西日本支社 ☎ 0869(24)0820

三菱農機株式会社

ホームページ http://www.mam.co.jp/